

# NJ素流協 News

平成29年 8月10日

第151号

平成29年 8月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)

TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 平成29年度第1回東北地区 需給情報連絡協議会を開催

東北地区広域原木流通協議会(会長・NJ素流協鈴木信哉理事長)は、平成29年度第1回「国産材の安定供給体制の構築に向けた東北地区需給情報連絡協議会」を8月1日、盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニュー

伐採と造林の一貫作業等省力化施策等を推進する。

### 【岩手県】

・木質バイオマス利用の拡大等により、木材需給の逼迫を懸念する声もあり、県独自でも関係団体との情報共有に努めている。

### 【秋田県】

・県単独事業として、素材生産業者自らが皆伐・再造林を行う一貫作業システムを32ha実施予定。

### 【NJ素流協】

・原木流通状況については、一般材、合板材は順調に動いている。低質材はバイオマス発電所の増加もあり、引き合いが強まり原木不足の状況が続いている。

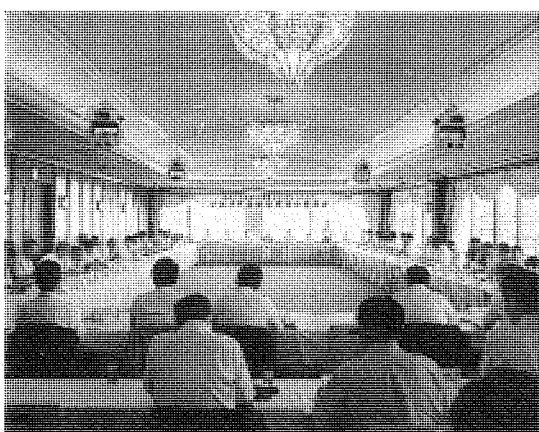
### 【宮城県木材チップ工業会】

・国産チップの需要は針葉樹、広葉樹ともに堅調に推移、価格は横ばい。製紙工場の受け入れ制限はなく増産計画には生産増で対応。

### ▽地区の価格・需給等に係る討議

燃料用材需要の増大への対応、A材需要の確保、原木価格形成の主導権をテーマに討議が行われ、各委員から活発な意見が出された。

飯島座長は、「A材需要の確保ということでは、川下、もつと言えは建築サイドまで見通せない」と確保は難しいだろう。木造建築家の要求に対し、製材品を探して応えるのではなく、面倒だから集材材にしてしまえという状況になっている。分かっていることは全国的にも同じ状況ではないだろうか。ほかの地域とも意見を持ち寄って議論を集約してほしい」と討議を総括した。



▽需給情報の主な報告

【東北森林管理局】

・29年度の素材販売量は716千 $m^3$ を計画(前年比101%)。うち委託販売は約3割の209千 $m^3$ 、システム販売は507千 $m^3$ である。立木販売は2373千 $m^3$ (前年比129%)を計画しており、うち14千 $m^3$ は立木システム販売(前年比64%)である。

・木材安定供給に関し、複数年契約等を推進する。低コスト化に関し、

## トピックス

## 最新の「森林・林業白書」から

5月26日に公表された「平成28年度森林・林業白書」では、特集テーマに「成長産業化に向けた新たな技術の導入」が掲げられている。人工林の森林資源が充実し、伐期を迎えているが、全体として林業の採算性は低迷し、生産性の低い状況が続いている。成長産業化を実現するためには、収益性の向上を図り、森林資源の循環利用を進め、原木の安定供給体制構築と、新たな木材需要の創出のための技術開発が必要であるとされている。

昨年6月に閣議決定された「日本再興戦略2016」でも、林業の成長産業化政策として、新技術導入の必要性が挙げられている。

特集章では、現在（国研）森林総合研究所をはじめ、民間企業等で進められている新技術の開発と導入の状況について解説しているので、概

要をお伝えする。

## ▽林業の生産性向上のための技術

収益性を高め、持続可能な林業経営を確保するためには、経費を縮減して、再造林を確実に行う必要がある。そのために、伐採と造林の一貫作業システムや、低密度植栽技術の実証研究、コンテナ苗を大量生産する技術開発が進められている。また成長と形質に優れたスギ、カラマツ精鋭樹の開発、センダン等早生樹種の広葉樹の森林施業など、早期に収入を上げるための研究も進められている。

シカ等の食害防除では、造林地を小さな区画に分けて防護柵で囲うパッチデバイスや、シカの個体数管理のための誘引狙撃やセンサーを用いた囲いかななどの新技術が開発、導入されている。

高性能林業機械については、林野庁が林業機械メーカーと連携して、我が国の複雑な地形に対応したタワーヤード等の開発を進めている。また、厳しい労働環境に対応するため、無人走行フォワーダや林業用アシスト

スーツ等、最先端のロボット技術を活用する研究も進められている。

## ▽情報通信技術（ICT）の活用

森林蓄積量、地形情報、境界情報、所有者情報等の森林情報を効率的に把握、整備するために、森林GIS（地理情報システム）が利用されているが、今後はこれらをインターネット上で共有する「森林クラウド」により、さらに情報精度を高め、有効活用することを目指している。また木材生産、流通においてICTを活用することで需給のマッチングを図り、効率的な木材流通を目指している。

## ▽木材需要の拡大に向けた技術

CLTや木質耐火部材の利用により、木造中高層建築物等非住宅分野での需要を創出することが期待されている。また型枠合板や住宅の横架材など、これまで国産材の利用が低位であった部材の加工技術も開発が進められている。

木質バイオマス利用においては、より高効率なエネルギー利用や、セロースナノファイバー等新素材の

開発と実用化により、高付加価値化が期待されている。

## ▽花粉の発生を抑える技術

花粉症対策としては、無花粉スギ品種の開発と新植が行われているほか、スギ雄花のみを枯死させる薬剤等の開発も進められている。

白書では、これら新技術を導入していくには、国や自治体による普及事業の推進、経営力ある林業事業者の育成、高度な知識と技術・技能を有する林業労働者の育成が不可欠であり、技術開発への投資を含め、国民の理解を得ていくことが重要であると結んでいる。

## 東北地区原木トラック運送協議会の設立に向けて始動

第2回設立準備会（第1回については第146号参照）が7月19日盛岡市において開催され、原木トラック運送事業者の協議会設立に向けた協議が行われた。協議会は、貨物自動車による原木運送事業の社会的、経済的地位の向上と会員相互の連絡協力を図ることを目的とし、名称を

「東北地区原木トラック運送協議会」とする方向で合意した。

今後、8月上旬に設立発起人会を発足させ、東北6県において原木運送事業を営む法人または個人に加入を呼びかけ、9月中旬の協議会設立を目指すこととなった。

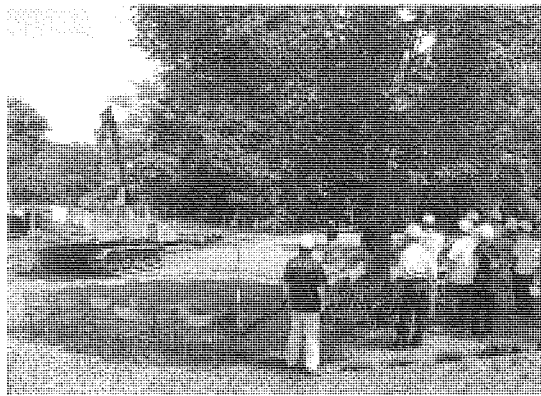
**いわて林業アカデミー第1回  
就業体験研修とオープンキャンパスが開催されました**

今年度より開講している「いわて林業アカデミー」では、7月19日～21日の3日間、県内林業事業体での第1回就業体験を行った。当組合員からは、(有)谷地林業、横澤林業(株)、(有)道又林業、(株)小友木材店の4事業体が、各1名ずつ研修生を受け入れた。

各事業体では、木炭製造、検知、下刈、造材、広葉樹伐倒、高性能林業機械の操作等の体験や現場作業システムの視察等を実施し、研修生は現場の雰囲気を感じた。

また、アカデミーでは7月27、28日の両日に来年度研修生の募集に向

けたオープンキャンパスを開催し、学生、教育関係者等が参加した。説明の中では、1期生から研修生活についての情報提供もあり、皆充実した日々を送っているとの報告があった。



いわて林業アカデミー、オープンキャンパス

機械研修の参観・体験も行われ、

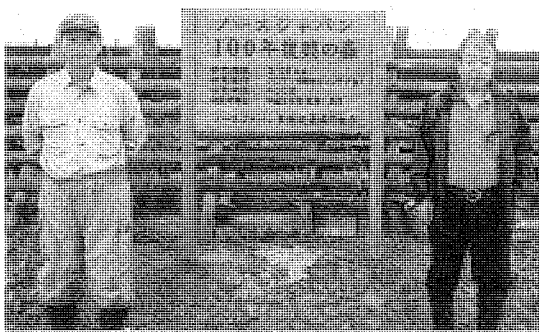
1期生がチェーンソー作業やフォワード、ハーベスタの運転を実演する等、早くも頼もしい姿を披露した。参加した学生もフォワードによる丸太の積み下ろしを体験し、迫力に驚きながらも積極的に取り組んでいた。

今後のアカデミーの発展と研修生の活躍に期待!!

**「ノースジャパン100年  
復興の森」活動報告  
下刈作業等を実施しました**

海岸防災林再生活動についてご報告します。

6月29日：本年5月12日に植栽したクロマツについて植栽後の状況を確認。固い土地で苗木の活着が心配されたが、400本植栽したうち10本程度に変色や枯れが見られたものの、全体的に活着は良好。枯れた分は今秋、または来春に補植を実施する。下草も部分的に繁茂しており下刈の必要があった。



新たな記念撮影スポットの誕生!?

7月29日：岩手県産材を使用した立派な看板を設置、併せて下刈、補植、追肥も実施した。(有)早稲谷・菅原苗木店(宮城県気仙沼市)の菅原昌樹代表取締役、菅原木材(岩手県一関市)の菅原達雄代表の2名にご協力頂いた。

**東北森林管理局の  
小島新局長が来訪**

林野庁の7月10日人事異動により東北森林管理局長に就任された小島孝文氏が、7月26日当組合に来訪され、東北地区の林業の動きについて鈴木理事長、高橋常務理事と意見交換した。

また、当日は、岡田秀二富士大学学長(前林政審議会会長)の呼びかけにより、岩手県内の主な木材関係企業・団体が集まった「民国連携木材産業打合せ会議」が開催され、小島局長も出席された。会議では、岡田学長、小島局長、県木材産業協同組合の日常理事長の3名から話題提供があった後、意見交換が行われた。この中で小島局長は、「東北、岩手は、

## おすすめの本 岡本太郎の東北



撮影：岡本太郎 編：平野晁臣  
発行：(株)小学館クリエイティブ  
(定価2,500円+税)本年6月28日初版第1刷  
大阪万博の太陽の塔と「芸術は爆発だ」で名高い芸術家、故岡本太郎氏が、1965年から1965年にかけて秋田、岩手、青森、山形を旅した際撮影した貴重な写真をまとめた新刊本。昭和回顧的写真集かと思いきや、本書扉に「岡本東北学」の肝たる一文が掲げられてあり腰を抜かしました…!

第62回岩手県国土利用計画審議会が7月27日、盛岡市において開催され

### 県国土利用計画審議会 に出席

林業・木材産業のポテンシャルの高い地域であり、この地から我が国をリードするような取組みを進めていきたい。また東北の広葉樹の活用にも注目している」旨の抱負を述べられた。

## 国有林素材山元委託販売 入札結果

市日：平成29年7月20日（木）

市場：岩手北部森林管理署

(参加者人数 9名)

売払番号	樹種	長級 (m)	径級 (cm)	等級	本数	材積 (m <sup>3</sup> )	応札枚数	土場
101-1	スギ	4.00	16-38	込	182	36.748	4	茂谷地第二
101-2	スギ	4.00	16-36	込	165	34.496	6	茂谷地第二
101-3	スギ	4.00	12-18	込	71	6.326	5	茂谷地第二
101-4	スギ	4.00	13-18	込	160	14.350	5	茂谷地第二
101-5	スギ	4.00	13-20	込	190	17.798	5	茂谷地第二
101-6	スギ	4.00	16-30	込	175	29.124	4	茂谷地第二
101-7	スギ	4.00	11-20	込	627	60.030	4	茂谷地第二
101-8	スギ	4.00	16-44	込	51	10.984	4	茂谷地第二
101-9	スギ	4.00	16-36	込	253	49.312	6	茂谷地第二
101-10	カラマツ	4.00	13-18	込	161	14.636	2	茂谷地第二
101-11	カラマツ	4.00	16-38	込	321	67.720	7	茂谷地第二
101-12	カラマツ	4.00	11-18	込	71	6.136	3	茂谷地第二
101-13	カラマツ	4.00	16-40	込	88	19.722	6	茂谷地第二
101-14	カラマツ	4.00	16-38	込	157	38.354	6	茂谷地第二
101-15	カラマツ	4.00	16-30	込	192	31.280	4	茂谷地第二
101-16	カラマツ	4.00	12-20	込	160	14.094	3	茂谷地第二
101-17	カラマツ	4.00	16-30	込	81	14.650	5	茂谷地第二
101-18	カラマツ	2.00	16-36	込	690	66.425	6	茂谷地第二
101-19	カラマツ	2.00	16-40	込	613	75.301	5	茂谷地第二
101-20	カラマツ	2.00	16-34	込	934	80.926	4	茂谷地第二
101-21	カラマツ	2.00	16-44	込	261	32.817	6	茂谷地第二
101-22	カラマツ	2.00	16-32	込	219	21.341	7	茂谷地第二
101-23	カラマツ	2.00	16-32	込	505	46.759	5	茂谷地第二
101-24	カラマツ	2.00	16-30	込	95	9.758	3	茂谷地第二
合計					6,422	799.087		

平成29年度第1回県産材供給連絡会議が7月28日、盛岡市において開催され、当組合から高橋常務理事、竹田光一参与、小野寺義晃営業企画部長が出席した。素材価格や需給動

### 県産材供給連絡会議に 出席

た。当組合の高橋常務理事が出席し、岩手県土地利用基本計画書の改定に関する審議が行われた。

9月に種子採種を予定していますが、情報が足りません。球果が多く付いているカラマツ樹を知っている、あ

### 緊急のお願い！球果の豊富な カラマツ樹の情報提供を

近年、カラマツ種子の不足が深刻な状況となっております。当組合では種子確保に協力するため、今年度も9月に種子採種を予定していますが、情報が足りません。球果が多く付いているカラマツ樹を知っている、あ

### \*管内供給先情報\*

1. (有)川井林業雫石工場でのバイオマス発電用原木受け入れについて、トラックスケールの設置が完了、8月1日より重量計量での受け入れを開始しました。
2. スギ80年生以上の目詰まり材についてはご相談ください。

るいは見かけた方は、経営企画部に至急お知らせ願います。  
【ご注意】  
①球果の褐変は8月下旬頃から、それまでは緑色をしており、褐変前の褐色球果は古いもので種子は入っていません。  
②9月中旬には、球果から種子が飛び始めるので、情報提供は是非9月上旬までお願いいたします。  
③放牧地での1本立ちや林縁など、日当たりの良い木に着果が多く、種子も充実しています。  
担当：経営企画部 竹田、吉田

## ちよつと気になる木の話

13

ウッドファースト社会、次のキーワード、ウッドスタート、ウッドライフ、ウッドエンドとは？

全国の林業・木材産業団体で掲げるウッドファーストとは、元来カナダのBC州の木材不況時代に、産業振興のためつくられたウッドファースト法に由来している。東京都知事選より、かなり前に使われていたフレーズである。

さて、今ウッドスタート（子供が誕生したときに木のおもちゃ等を贈呈することの呼び名）が全国に拡大してきている。そのスタートは、長野県伊那市と、東京都新宿区の関係にある。伊那市で作った木のおもちゃを、新宿区生まれの子供に誕生記念品として贈呈するものである。関係は桜を思い浮かべれば良い。新宿御苑と伊那高遠城址公園の桜は両方とも有名である。高遠藩内藤家の下屋敷が新宿御苑にあったことに起因してい

て（結果、内藤新宿という）、友好提携都市となっている。この伊那市長が推進しているのが、ウッドスタート、ウッドライフ、ウッドエンドなのである。

ウッドスタートした人生は、その後木に囲まれた生活を送るウッドライフを満喫して、最後にウッドエンドとなる。ウッドエンドって？一般的に火葬の場合は棺桶でエンドであるが、棺桶のほとんどは外国産材で、ほぼ中国から輸入されている。

私が棺桶問題に気が付いたのは、神戸の棺桶屋さんからの問い合わせである。「近年親父が環境問題に関心があり、亡くなる前に『棺桶はダンボール製のエコ棺にしてくれ』と言われた。日本の間伐材で作って環境に優しい棺桶を勧めたが、木材問屋に電話をしても『そんなものは置いてない』と取り合ってくれない」と言うのである。そもそも棺桶は、土葬が主流だった

た時代は、土の中で腐り易く、白い清浄な色をしたモミが使われていた。火葬時代になってもモミに拘り、日本に無くなるとヨーロッパのモミが使われるようになった。その後、中国からの輸入品に完全にシエアーを奪われていった。

ここでダンボールに拘る人は特別として、何故、棺桶には拘りが無いかである。現在、葬式は葬祭センター利用が一般的で、葬式そのものがセットで棺桶を選択することが無いのである。特に死亡の後は時間が無いので、全くセンターにお任せ状態となっている。現在

高齢化社会の中、需要量は大きい。木材業界は全く関心が無い。棺桶という品物になれば、輸入上も木材のくくりにならず、自分達を経由しないからである。地方での葬祭センターの中心はJAだが、ここも当然輸入物である。伊那市でもJAとの協議を重ね、やっと実用化に踏み出している。最近布をかけるので、必ずしも白木でなくても大丈夫である。個

人的には、生前にカードを作ってもらい、「外材で・国産材で・地元の木で」に丸を付けてもらい、「故人の意思です」が望ましいと考えるが……。考えすぎかな？

同じモミでは塔婆もあり、東京の寺院では国内のスギを使おうとの動きも出ている。同じく蒲鉾の板も、小田原市の有名な蒲鉾メーカーが輸入モミから国産スギへ転換の動きをしている。さらにモミには、神社のお札や絵馬の需要もある。日本人は、ここでは未だにモミに拘っているのである。

モミに近いのは、スギの白太かなとかトドマツかなとか考えることもあるが、モミの木があったら、もっと最高級品として珍重して欲しいものである。まだ高知県や宮崎県、福島県にはモミの専門工場も立地している。本当のモミ棺桶の大産地は、なんと東京都奥多摩だった。

是非ウッドスタート、ウッドライフ、ウッドエンドのキーワードが実現する日を期待したい。

# 今月の名木・巨木 39

(青森県青森市宮田)

青森市指定天然記念物

## 宮田のいちよう二株

指定…1962年10月26日

所在…青森市宮田字山下

青森市市街地の東のはずれ、東岳(あずまだけ、標高684m)の麓を目指していくと、2003

年アジア冬季競技大会の際に建設された「青い森アリーナ(現マエダアリーナ)」の銀色の屋根が見えてくる。敷地内では新しいスタジアムの建設工事が進行中だ。その裏側へと登山道を進むと、赤い鳥居に今ふうの住宅のような御社「龍神宮」と、「龍神御水」のほころが現れる。その奥の一段高く柵をめぐらせた中に「宮田のいちよう西株」がある。

株立ちし、大枝を逆立てた姿。幹には、おそらく地元の方が毎年新しく作り替えるのだろう、細いしめ縄が丁寧に巻きつけてある。



西株。平成12年の環境省調査では幹周14.7m

案内板の説明に、「青森市内に現存する樹木の中では、最も大きく樹齢も八百年と言われている。いづごろだれが植えたのかは解明されていらないが、遠い昔から神木として広く人々の信仰をあつめたようである。とくに母乳の不足がちな人たちが、この木を削って家へ持って帰り、細かくきざんでご飯にまぜて食べると母乳が多く出るようになったという」とある。気根を垂らしたイチヨウの古木には欠かせない母乳伝説だ。

イチヨウの巨木はもう一本ある。「山寺跡地」「イチヨウ」の立て札があり、草地の中に「宮田のいちよう東株」が立つ。近寄ってみると、西株よりほっそりしているが、やはり株立ちして凄みのある姿だ。周囲を見回すと、ここが木立に囲まれた四角い平らな窪地であることに気付く。立て札にある通り、ここには昔、寺院か何かがあったらしい。古びた石段があり、昇ってみると天辺には柵で囲われたスギと見られる大きな切り株がある。



気根と母乳伝説

案内板の続き。「菅江真澄の『すみかの山』の寛政八年四月二十日の項に記述されている『銀杏』は、この木のことである。」

菅江真澄を知らないのです、帰ってからインターネットで検索した。

江戸時代の旅行家・博物学者で、信州へ東北へ蝦夷地を旅し、100種2000冊の著作物を残した。寛政8年(1796年)にここを訪れた時のことを、「吾妻山(東岳)の麓の宮田という村にきた。この塚原のようところに、ふるい銀杏(乳いちようという)の木が二本たっている。寺のあったあとと思われて、500年ほどむかしからの石塔婆がたくさんころがっていた」と記したそうだ。1290年頃と言えば鎌倉時代、蒙古襲来の頃ではないか…。この土地の歴史の古さが窺い知れる。



建設中の新スタジアムと。数百年をひとまたぎか

平成29年7月分の販売実績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	8,707	87.0	95.1	13,394	123.7	253.6	22,102	106.0	153.0
カラマツ	2,742	58.0	113.9	632	110.7	47.3	3,374	63.7	90.2
アカマツ	2,587	90.5	118.1	126	134.5	117.4	2,712	91.9	118.1
その他針葉樹	0	*	*	0	*	*	0	*	*
広葉樹	0	*	*	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
合計	14,036	79.8	102.0	14,152	122.8	209.3	28,188	96.8	137.4

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	6,082	104.4	114.7
カラマツ	1,566	80.7	66.5
アカマツ	1,151	69.6	135.6
合計	8,799	93.4	103.5

樹種	今年度累計			
	合板用 (m <sup>3</sup> )	その他 製材用等 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	バイオマス (t)
スギ	39,751	44,034	83,785	24,377
カラマツ	12,795	2,449	15,244	6,366
アカマツ	10,377	559	10,937	8,423
その他針葉樹	0	0	0	
広葉樹	0	74	74	
合計	62,923	47,116	110,039	39,165
目標達成率(%)	34.0	41.0	36.7	39.2
計画量	185,000	115,000	300,000	100,000

注)\*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成29年7月の需給動向】

- スギ素材は虫害時期のため、製材向け一般材が不足。合板材が増加傾向にある。
- カラマツ素材は供給量が増えたことにより、合板工場に一部制限がかかる。8月以降も同様。
- アカマツ素材は伐採制限のため出材が減少、しかし受給バランスは保たれている。

耳からウロコ

ジャパニーズラチと唐松の違和感とカラマツのある風景とは

松類は、見た目で大体分かる。赤松(アカマツ)、黒松(クロマツ)、五葉松(ゴウマツ)等である。カラマツも見た目で分かるし、常緑ではないので冬には一目瞭然である。落葉松だもの。

常緑の松は、マツ科マツ属、カラマツはマツ科カラマツ属であり、日本の固有種で、ジャパニーズラチと呼ばれる。ならば、ジャパニーズラチなのに、漢字では唐松なのかと疑問になる。

唐草模様、唐獅子牡丹、唐辛子等、「唐」が付くのは中国からの由来に関わるものである(注。唐辛子は中国ではなく、南蛮からだとの説もあり、別に南蛮とも言)。日本古来のものなのに、なぜ唐松かと言えば、「短枝上に集まった葉っぱが唐風の絵に似ている」という理由らしい。よく分からないが、かつての文学作品には落葉松と書かれているものが多い。有名な歌の歌詞にも落葉松と書いてカラマツと歌う歌がある。ご存知、「北国の春」である。

「白樺、青空、南風」で始まり、「落葉松の芽がふく」と続いている。

この歌を聴くと、シラカバとカラマツの風景であり、長野、岩手、北海道の風景を思い浮かべるが、北国だから岩手が北海道かなと。岩手出身の千昌夫のヒット曲なので、岩手の風景だろうか? : : : 岩手の人には残念ながら、作詞者は「いではなく」で、長野県南佐久郡南牧村出身で、「故郷の景色を思い浮かべて歌詞にした」と明言している。

岩手で盛んに伐られているカラマツが50年生位とすれば、歌が作られた40年位前はまだ10年から20年生となるので、やはり長野の方が当時としては合っているのかも知れない。カラマツの天然の北限は蔵主に分布しているため、岩手、北海道のカラマツはすべて信州や富士山から移入したカラマツということとなる。

しかしながら、ここまで成長すると、白樺、青空、南風、落葉松と、故郷の風景とマッチした北国の春である。唐松というよりは、落葉松がカラマツの名前の記述の方が、何となく良い気がする。くどいようだがジャパニーズラチである。ちなみに「おそ松くん」のカラマツも、木のカラマツが由来のようにある。兄弟中では、一番のイケメンである。